

# 辺境で、AIと死者と暮らす

## 外側で生きること / 他者と出会うこと

今、あなたが立っている場所はどこでしょうか？  
それがどこであれ、その世界の外側について思いを巡らせてみて下さい。  
さらにそこで出会うであろう他者について考えてみてください。

本来世界には生者だけでなく死者の存在が深く関わっていました。  
その世界が、生者にとっての合理性だけでなく、ここにはいない死者にとっても意味あるものであるかどうか。  
世界とはそうした見えない存在に縛られた、ある意味不自由で非合理的なものでした。

今、世界にとって死者の存在は急激に薄れ、代わりにその穴を埋めつつあるのがAIです。  
AIはデータ化された私たちの行動を元に各々にとって最適な環境を提供してくれます。  
そうして世界は死者へのリファレンスが失われたあとも、無事、再帰的に生み出されるようになります。

そもそも世界の外側は存在するのでしょうか？  
外側とは何か、念のため定義したいと思います。  
それは見知らぬ文化や非日常のことではありません。  
それは今自分のいる世界を眺めることのできる場所です。  
あるいは、知らない世界として、今あなたがいる世界と新たに出会うことができる場所です。  
つまりそこでは、あなた自身が世界にとっての他者となるのです。

外側と内側の境界は常に揺れ動き生成され続ける動的なものかもしれません。  
その生成の現場に立ってみて下さい。  
それが辺境です。

辺境は唯一、眼差しが生まれる場所でもあります。  
そこから、もはやあなたが含まれない世界を眺めて下さい。

そこに立った時、はじめて出会う他者があると思います。  
AIと死者はいずれも身体を持たない、究極の他者を表しています。

そうした他者との出会いを通して、ノスタルジーではなく都市や建築の問題として描いて欲しいのです。  
あなたの辺境と、そこから世界がどのように見えたかを。

文：吉村 真基（審査員長）

## 募集要項

### ●提出物

#### ①プレゼンシート

用紙の大きさはA2判（420mm×594mm）とする。

着色など、表現上の制約はない。

各自の提案内容に沿って自由に提案すること。

※計画地、計画面積、家族形態、生活様式等の制限はない。

また独立住宅、集合住宅、その他の居住形態の制限もない。

- ・用紙は縦使い、または横使いとし、1枚（片面）にまとめること。
- ・パネルなど巻けないものは不可とする。また模型などは受付ない。
- ・プレゼンシートには氏名や暗号等目印となるものは記入しないこと。

#### ②プレゼンシートのデータ：PDF形式 + JPG形式（高解像度）

- ・データの保存名称には、作品名を記すこと。
- ・データはUSBメモリまたはCD-Rで提出のこと。
- ・ケースまたは盤面に作品タイトル、氏名を明記すること。

### ●応募資格

応募資格についての制限はない。

### ●応募締切

2019年10月18日（金）当日消印有効

### ●審査員（順不同・敬称略）

審査員長	吉村 真基（吉村真基建築計画事務所）
ゲスト審査員	辻 琢磨（403architecture）
特別ゲスト審査員	村上 慧（アーティスト）
審査員	新田 鷹雄（GRUPPE KEN）
	南川 祐輝（南川祐輝建築事務所/JIA）
	米田 雅樹（ヨネダ設計舎/JIA）

### ●1次審査

日時：2019年10月26日（土）

1次審査通過者には11月上旬に通知予定

※見学可能。希望者は設計競技事務局にお問合せ下さい。

### ●2次公開審査会・表彰式・記念講演会

日時：2019年11月30日（土）

会場・その他詳細については、11月上旬に

Webサイトにて公表予定

### ●表彰

金賞	1点	商品券10万円、賞状、記念品
銀賞	2点	商品券5万円、賞状、記念品
銅賞	3点	商品券3万円、賞状、記念品
奨励賞	若干名	学部生対象（高校、高専含む） 商品券1万円、賞状、記念品
ゲスト審査員特別賞	若干名	商品券1万円、賞状、記念品

